

# クリスマス特別企画 -この冬、ウィムがやって来る!

12月22日(月)

パフォーマンス 『Christmas Stories-クリスマスの物語』  
17:00~19:00

闇が深まり、私たちの意識が内側へと向かうこの時期。夏の外的生活の裏りが内面活動へと変容する冬。周囲の評価ではなく自分自身の心が真実に感じているものは何か。クリスマスの物語は「ありのままの自分」を感じるために、自らの内面世界へと私たちを導いてくれます。「時計職人」「羊飼いの笛」など、クリスマスにこそわかれたいストーリー。クリスマスを迎える夜、暖炉の火を囲むように、心温まる物語を音楽の調べとともに楽しんでください。本物のストーリーテリングを味わっていただくために、全ストーリーの日本語あらずしが書かれたパンフレットをお配りします。英語が苦手な方にも十分楽しんでいただけます。

会場：  
津田塾大学 津田梅子記念交流館  
問合せ・申込先：  
津田梅子記念交流館事務局  
Tel: 042-342-5146  
Fax: 042-342-5109  
Email: forum@tsuda.ac.jp

12月23日(祝)

ワークショップ 『心に響く語り方-沈黙を学ぶ』  
10:00~16:30

声の使い方、呼吸、対話、ジェスチャーなど、ストーリーテリングのさまざまな要素から、今回は沈黙の使い方を取り上げます。「沈黙」には聴き手の心を惹きつける魔法のような魅力があります。対話の中の沈黙、ジェスチャーの中の沈黙、ストーリーのはじまりの沈黙・・・さまざまな沈黙を意識的に使えるようになることは、物語に限らず、講演やプレゼンテーション、授業などにも大いに役立つでしょう。通訳あり/定員：16名

パフォーマンス 『Christmas Stories-クリスマスの物語』  
18:30~20:30  
(12月22日の公演内容をご参照ください)

会場：オープンフォーラム早稲田  
問合せ・申込先：  
フォーラム・スリー  
Tel: 03-5287-4770  
Fax: 03-5287-4771  
Email: info@forum3.com

12月28日(日)

ワークショップ 『Bringing the Story Alive Through Silence』 9:30~16:30

ジェスチャー、声の使い方、呼吸、対話-聴き手の心に響くストーリーテリングには様々な要素が含まれています。今回はその中でも沈黙の使い方に焦点をあててみましょう。話しの中で沈黙を意識的に使えるようになることは、ストーリーテリングに限らず、講演やプレゼンテーション、授業など人前で話をするときにも役立ちます。通訳なし/定員：16名

レクチャー 『Storytelling in the Field of Education』  
18:30~20:30

教育とは何か。その問いは、英語を教える教師にとっても重要な問いかけです。教育の深い意味を探る中で、授業において、そして生徒と教師にもたらされるストーリーテリングの重要性が明確になるでしょう。[通訳なし]

会場：品川健康センター  
問合せ・申込先：  
児童英語と絵本の会  
Tel: 080-5196-5873  
Email: mininice@east.cts.ne.jp

YouTube 語りの輪ウェブサイトより、ウィムのワークショップ及びパフォーマンスの様相を動画でご覧になれます。動画の真ん中のプレイボタンをクリックすると視聴できます。ウェブサイト: www.werder.jp



寄付のお願い

ストーリーテラー、ウィム・ウォルブリックの活動は、今日の日本社会で意義ある活動として、来日を重ねるごとにその重みを増しています。これまでも数多く存在する世界各国のストーリーの公演、教育をはじめとした社会におけるストーリーテリングの重要性についての講演、そして様々なワークショップを日本各地で行ってきました。そして、ウィムのストーリーテリングといつても驚かすことができるよう、ニュースレターの発行とホームページを開設しています。これらの活動は、ストーリーテリング文化の復興、そしてストーリーテリングを通して私たちが自分自身を見つめるきっかけとなっています。今後ともこの活動の継続性を保つために、本趣旨にご理解、ご賛同いただける方々から広くご寄付を募っております。ご寄付は会費と違い、特に定額はありませんが、どなたでも、いくらかでも受け付けております。お寄せいただいた寄付金は、年3回のニュースレター発行費(印刷及び郵送代)、ウェブサイト維持費、及び日本国内における活動費の一部として活用させていただきます。ご協力、ご支援をよろしくお願い致します。

寄付の方法

寄付は振込みでお願いしております。  
※銀行振込の場合は、お手数ですがお振込み後にお名前、ご連絡先、使いみち(希望がある場合のみ)をメール info@werder.jp またはFAX: 0031-84-2200240でお知らせください。

◆郵便振込口座: 00730-1-39874 口座名 語りの輪  
◆銀行振込口座: 北陸銀行 堀川支店(普通) 5043970 口座名 語りの輪

Circle of Storytelling, Eendengang 75, 7552 KN Hengelo, The Netherlands  
tel: +31-74-2422696 fax +31-84-2200240 Web: www.werder.jp Email: info@werder.jp  
発行・編集: 米屋香林 編集協力: Wim Wolbrink, Attie Schipper 印刷: RDS.Hengelo.nl

そんなヨーロッパに住む人々が、母国語以外にも2つの外国語が話せるようにという考えが、ヨーロッパの教育にはあります。9月26日はヨーロッパ全土における「言語の日」。その日、ウィムは英語でワークショップを行いました。教師が教室で英語を使ってストーリーテリングができるようになることが目的でした。その他、シュタイナー学校での教師と親対象の連続講座、そしてベルナード・リーヴァフッドが創設した青少年のための学校(大人として社会に出る前に、自分自身を

見つめ、人生の方向を見定めるための学校)での連続講座も予定されています。そこはウィム自身が若かった頃に学んだ学校のため、ウィムにとって思い入れのある場所です。また、警察署でのワークショップも予定されています。警察官がストーリーテリングを学ぶ、だなんて、ちょっと不思議な感じですね。ストーリーテリングがコミュニケーションにおいて力強く人の心に働きを及ぼすということ、語り手ではない人々も意識し始めているオランダ社会です。

2009年度に向けては、3月20日のインターナショナル・ストーリーテリングの日、5月末に行われる語りの巡礼隊、そして2009年冬に予定されているグリム童話とモーツァルトの音楽のプログラムなどの準備も間もなく始まります。一方、ウィムにとって仕事はもちろん大切ですが、勉強もまた欠かせません。様々な本を読む中でストーリーテリングを深め、そして社会の中でストーリーテリングをどのように活かすことができるのか、ウィムは学び続けています。

“ストーリーテリングの世界へ! 2008夏”にご参加くださった皆様からの感想の一部ご紹介させていただきます。この他にもたくさんコメントが寄せられました。今後の活動の参考にさせていただきます。

パフォーマンス「The Voice in Your Heart-内なる声に耳をすます」より

- ・ 素敵な音色と語りにつかり引き込まれてしまいました。心に残る話ばかりでした。
- ・ 言葉の力、メッセージを感じた。
- ・ 易しい英語でゆっくり話してくれて、身振り手振りで情景も見えてきました。
- ・ 日々忙し過ぎる中で、ふと考える時間、気持ちに休まるような内容でした。
- ・ 私は英語が得意ではありませんが、なぜかよくわかりました。ストーリーテリングの力のすごさを感じました。
- ・ 人間の本质が、文化や宗教を超えたところにあると感じられました。
- ・ 2時間も英語で、と思いましたが、とてもよくわかりました。
- ・ 映画やテレビにない魅力がストーリーテリングにはあると思います。
- ・ 全身を使いながらも、力の抜けないききとした語りにも魅せられました!
- ・ それぞれのストーリーが、魂の気づきと成長を促す内容だった様に思います。

ストーリーテリング・ワークショップより

- ・ 人前で話すことが苦手だったので、少しだけ自分が変わったような気がしてとても勉強になりました。
- ・ とても具体的で身体にしみ込むような内容で、多分一生記憶から消えないと思いました。
- ・ エクササイズが理論的、段階的に構成されていたので、最後の「話す」ことがすんなりできました。
- ・ 無理なく自然に語りまで進めました。英語がわからないのでどうなるかとドキドキしていましたが、ワークショップが始まってすぐに安心しました。

DANK U WEL!!! この夏の来日は、陰ひなたに本当に多くの方々を支えていただいたお陰で実現することができました。心から感謝を込めて・・・

飯村滋さん、伊賀真理子さん、市村篤子さん、内田淑子さん、江藤裕子さん、小木曾綾さん、小木曾家一同、大竹裕子さん、加藤くに子さん、金折亭子さん、金園明恵さん、金田知子さん、嘉村賢州さん、黒川真由美さん、後藤寛子さん、小林芳美さん、佐藤雅史さん、しまだれいこさん、鈴木麻さん、鈴木美香さん、田所種子さん、趙京煥さん、戸田由美絵さん、中島とし子さん、水田円了さん、水田真理子さん、西島睦美さん、乃村葉子さん、萩原亜佐美さん、番匠春夫さん、藤田信幸さん、前野大喜さん、まーいさん、松本代子さん、松本昌代さん、水谷とも奈さんと友人、森下美恵子さん、森田由樹子さん、安井廣迪さん、山口家一同、山本茜さん、横浜生子さん、米屋家一同、米屋大地さん、渡部恵子さん、Mr.Douglas Jarrell、Ms. Attie Schipper、犬山市教育委員会、永進院、NPO法人語り手たちの会、NPO法人Home's V、カフェ楽、北日本新聞社、財団法人京都府国際センター、財団法人とやま国際センター、ジュビター東海、曹洞宗真国寺、タンテボレ、津田塾大学津田梅子記念交流館、庭園ギャラリーいち輪、同志社大学アセンブリーアワー企画、名古屋朝鮮初級学校、法然院、フォーラム・スリー、メタモルフォーゼ、読売新聞社、そしてワークショップレクチャー、公演にお越しくださった皆さん、本当にありがとうございました。

# Newsletter Circle of Storytelling

## 語りの輪 ニュースレター



8月末にオランダへ戻ったウィム。秋の気配漂うオランダでは、ウィムの家族や友人たちに温かく出迎えられ、気持ちよいスタート!と思いきや、数えきれないほどの郵便物、そしてコンピューターや電話のトラブルもウィムの帰りを待っていました、、、。そんなこんなでウィムのオランダ生活が慌ただしく再開しました。最初の仕事はエリザベス・キューブラー・ロス財団でのトレーニングでした。この財団は、最愛の家族や知人を亡くした人々の心を支え、彼らが生きていく道を見つけれよう様々なサポートを行っています。その要の一つが、エリザベス・キューブラー・ロス博士の死にゆく人々に関する研究についての講演です。ところが財団の人々は、その重要な講演が真に活かされていないと感じていました。そこで、講演者たちがもっと心に届く講演ができるよう、ウィムとストーリーテリング学校の同僚、フランスが

2日間トレーニングを行うことになったのです。その仕事の合間にはストーリーテリング学校も始まりました。9月初めから12名の社会人学生と個人面談を行いながら、一人一人の志望をとことん話し合い、10月2日に3期生が学びをスタートしました。日本でいうワークショップのように小人数制(定員12名)で4ヶ月間、学びを深めていきます。公園や庭園、レストランや学校でも語りを行いました。シュタイナー学校でのパフォーマンスは、異文化の人々と繋が

合おうという興味深いテーマでした。オランダには多くの移民、難民がいます。ウィムの住む地域でも様々な異なる文化を持つ人々が入り交じって生活しています。このときのパフォーマンスでは、オランダ、アフリカ、南ヨーロッパ、東ヨーロッパ、アジアなど世界各国の子どもたちが肩を並べてウィムが語るストーリーに聴き入っていました。オランダではオランダ人と北アフリカや東南ヨーロッパの人々との間に一種の緊迫感があるのですが、ストーリーテリングは人々の間に存在するそうした緊迫感を和らげ、人々が結びつく助けとなるのです。同じ時期に同じ地域で開かれたフェスティバルもまた、トルコやイランなど文化の異なる人々とオランダ人が触れ合い理解し合うことを意図したもので、ウィムもそこで語りしました。ヨーロッパには30以上の国が存在し、国の数以上の言語が存在しています。



オランダはすっかり秋が深まっている今日この頃。秋空に舞う紅葉、足下には落ち葉のじゅうたんにどんぐりが転がり、合間からきのこが顔をのぞかせています。一方で、秋の始まりに訪れる嵐にはじまり、朝晩の露、そして静かに降り続く雨。日に日に日が暮れるのも早くなります。古代の人々は、一年の中で訪れるこの困難な時期の始まりをはっきりと感じていました。日に日に短くなる昼間、一体いつまで続くのか。それはまるで、太陽が消えていってしまうかのようです。そこで、秋という季節を感じる一種の恐怖感に向き合い、それを乗り越える大きな勇気がこの時期に必要とされてきました。神話の中には、そうした勇気をもち、困難を克服する勇者がたくさん登場しますが、その中の一人、秋の夜空に輝くペルセウス座の物語をご紹介します。

### ペルセウス(ギリシャ神話より)

ペルセウスはギリシア神話に登場する英雄である。彼の母はダナエといひ、ダナエの父アクリシオスは「お前の娘の子供が、いつかお前を殺すだろう」という神託を受けていた。これを恐れたアクリシオスは、子供を生ませないようにダナエを狭く強固な塔の中に閉じ込めてしまう。しかし、塔の中に閉じ込められたダナエは、あろうことか大神ゼウスに気づいてしまったのだ。いかに強固な塔であっても、大神ゼウスの前ではなんの役にも立たない。ゼウスは黄金の雨に身を委ねて逃げ込み、ダナエはペルセウスを産んだ。この事実を知ったアクリシオスは怒り狂った。そして、生まれたばかりのペルセウスとダナエを箱の中に閉じ込めて、海に流したのであった。



海を漂流したダナエとペルセウスは、運良くセリポス島の漁師ディクテウスによって救出された。ペルセウスは美しく力強い若者に成長したが、やがて、ディクテウスの兄でセリポス島の王ポリュデクテウスがダナエに恋心を抱くようになった。そこで邪魔になるペルセウスを遠ざけるため、ポリュデクテウスは恐ろしい魔物メデューサを退治し首を取ってくるようペルセウスに命じた。その怪物は、髪の毛の一本一本が蛇になった醜い女の姿をして、その姿を見たものはあまりの恐ろしさに石になってしまうという。

ペルセウスは、どのようにしたら姿を見ずにメデューサを退治することができるだろうかと思索に暮れていた。そこへ神ヘルメスと女神アテナがペルセウスを訪れ、ヘルメスの翼のついたサンダル、アテナの盾をペルセウスに与えた。サンダルを履けば自由に空を飛ぶことができ、鏡のように磨き上げられ輝いている盾を鏡にしてメデューサを見れば、きっと大丈夫-そうしてヘルメスはメデューサの住む洞窟へと向かった。

メデューサの棲む洞窟の周りは、まるで地獄絵図のようであった。いたるところに、かつては生きた人間だったであろう石の像が転がり、その顔はどれも恐怖で歪んでいた。ペルセウスは手に持つ短剣を握りしめ、意を決して洞窟の中へと足を踏み入れた。しばらくして、ペルセウスは足を止めた。アテナから譲り受けた盾に人影が映ったのだ。薄暗い洞窟の中、その人影の髪の毛にあたる部分が不気味にうごめいている。ペルセウスは心

その帰途の途中、ペルセウスは海から突き出た岩に縛り付けられた美女、アンドロメダを見つけた。彼女の母親が自分の娘の方が海の精たちより美しいと言ったため、海神ポセイドンの怒りに触れ、クジラの怪物ケイトスの生け贄にされるのだという。かわいそうに思ったペルセウスはアンドロメダを助けることを約束したが、襲いに来た怪物に剣は全く歯が立たない。そこでペルセウスはメデューサの首を取り出し、怪物を石に変えた。

セリポス島へ戻ったペルセウスは、暴君と化したポリュデクテウスの横暴に激怒し、約束のメデューサの首を突きつけて彼を石にする。その後、強い絆で結ばれたペルセウスとアンドロメダは結婚し、たくさん子どもをもうけ幸せに暮らした。

また、ペルセウスは祖父アクリシオスを殺すという予言を思いもかけない形で成就させている。あるときペルセウスは円盤を投げる競技会に出場した。彼が円盤を投げたところ、手が滑って円盤を客席の中へ投げ込んでしまった。円盤は客席にいた老人に当たり、老人は死んでしまった。その老人こそアクリシオスだったのだ。

メデューサの首をかかげ、クジラの怪物からアンドロメダを救い出すギリシャ神話の勇者ペルセウスの星は、秋の夜空にひときわ美しくその姿を現しています。そしてペルセウス座の側にはアンドロメダ座も。秋の夜空、その他にもどんな物語が輝いているのでしょうか。